

1 学校教育目標

◎進んで学ぶ子 ○仲よく 助け合う子 ○明るい 元気な子
認め、励まし、価値付ける営みで自尊感情を育み、主体的に取り組む態度の醸成を図る

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

| | |
|---------|--|
| ○学校像 | ○学ぶ楽しさを味わえる学校…学ぶことの意味が分かる学校 ○児童・教職員ともに高い人権感覚をもち、体罰等やいじめのない、安心して通える学校 ○協働する学校…「チーム皿沼」として丸となり協働して教育活動を行う学校、連携校とも協働する学校 |
| ○児童・生徒像 | ○各教科で目指す資質・能力を身に付け、学んだことを活用する（学びはお金）意識をもち、対話的に学ぶ子 ○人の痛みを感じ取れる感性や人権感覚のある子、集団に貢献する喜びを感じ、周囲を幸せにする子 ○目標に向かってやり抜く気力をもち、心も体も健康な子 |
| ○教師像 | ○学ぶ意味を理解させ、対話の必然性がある授業を創り、学び続ける熱意と20年後の子供のために力を尽くす使命感をもつ教師 ○児童の存在を認め、励まし、価値付ける営みで、児童の自尊感情を高める教師 ○組織人、教育公務員としての自覚と誇りをもち、保護者・地域から信頼される教師 |

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

<学校の現状>

児童：コロナ禍もあり、登校できない児童が多数いて、授業を改善しても資質・能力の向上を図れないケースも多い。

教師：17名の教員のうち年次研対象者が7名、6年目以内も5名という超のつく若手が多い構成である。その若さを生かしての機動力とチームワークの良さで、多くの課題を乗り越えている。

保護者・地域：感染拡大防止で、学校との接点が非常に限られている中、創立40周年事業を執り行うことができた。コロナ禍及び学習指導要領の下、新しい発想で記念式典、運動発表会、音楽発表会など全ての学校行事を変革する必要があったが、ご理解の上ご協力をいただくことができた。

<前年度の成果と課題>

年間を通しての校内研修などの結果、学習指導要領を実現する授業、それを児童の成長につなげることができた。校長の新しい教育理念「主体的に学習に取り組む態度」や「メタ認知」を児童が理解し、授業の振り返りにも具体的に現れている。

「何のために、学ぶのか」という学ぶ意味の理解が進んできた。今後は、「主体的に学習に取り組む態度」や「メタ認知」も含め、教員、児童、保護者、地域が一体となって、一層この方向性を推し進めていく必要がある。

上記の力は、学習だけでなく生活面にも波及し、自分だけが得をするのではなく、周囲も含めた全員が幸せになる行動を自ら考えてできる姿が増えてきた。また、それに伴い友達を見る目も優しくなってきた。

「学習指導要領の実現」「学校における働き方改革」「コロナ禍における学校行事の在り方」「リモート・ハイブリッド授業」「周年行事において愛校心や地域の一員としての自覚を涵養する」など、多くの成果を生み出すことができた。

| 4 重点的な取組事項 | | | | | | |
|------------|---------------------|---------------|----|----|----|----|
| | 内 容 | 実施期間（年度） R:令和 | | | | |
| | | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 |
| 1 | 学力向上アクションプラン | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |
| 2 | 安心して楽しく通える学校、愛校心の涵養 | ○ | ◎ | ◎ | ○ | ○ |
| 3 | 教師としての資質・能力の向上 | ○ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |
| 4 | | | | | | |

5 令和4年度の重点目標

| 重点的な取組事項－1 | | 学力向上アクションプラン | | | | | | | |
|--|------------|-------------------------------|----------------|--|-------------------|---|-----------------------------|--|------------|
| A 今年度の成果目標 | | 達成基準 (目標通過率) | | 実施結果 (通過率結果) | | コメント・課題 | | 達成度 ◎△● | |
| ア 区学力調査 イ 学びに向かう力 見方・考え方を働かせた 深い学びの実現 | | ア 4月区調査：通過率75% イ 振り返り記述目標値 | | ア 国語 73.8% 算数 73.9% イ 振り返り記述 4割強 | | ・どちらも目標値にあとわずか達しなかったが「勉強が好き」は区の平均を上回った。具体の取組は6(1)を参照。 | | ● | |
| B 目標実現に向けた取組み | | | | | | | | | |
| 新・継 | アクションプラン | 対象・実施教科 | 頻度・時期 | 具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように) | 達成確認方法 | 達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度) | 実施結果 | コメント・課題 | 達成度 ◎△● |
| 1 修正 | 自己調整力の育成 | 2年以上 1年 算数 | 通年 4月 通年 | ○4月予備調査4月調査 ○日常テスト 不注意か理解か誤答分析し、 対策を選択・判断させる。 | ○区調査の結果 ○日常テスト | ○区調査 75% ○日常テスト向上 ～7月と～12月 向上率比1割増 | 算数 区調査 55.3% 日常 10.3% | ○早めに行い、2か月かけAIドリルも活用し弱点克服する ○自己調整力は向上 | △ |
| 2 修正 | 学びに向かう力の向上 | 全児童 全教科 | 通年 | 指導と評価の一体化を目指した 指導評価計画の作成と実施により、 学ぶ意味の理解と振り返りの力向上 | 授業観察 振り返り記述 | 「学びはお金」(学んだことを使う) を実現した姿：6割 | 4割5分 | ○学ぶ意味の理解については昨年から進歩している。 | △ |

| | | | | | | | | | |
|---------|---------------|--------------|--------|--|--------------------------|---|---------------------------|-----------------------------|---|
| 3 修正 | 見方・考え方深い学びの実現 | 全児童 全教科 | 通年 | ○問題を解決できた要因(見方・考え方を)を振り返らせる ○授業改善プランの実施 ※ 問題構造を捉え、図に表す | ○授業観察 ノート記述 ○日常テスト | ○振り返り記述 「なぜできたのか」「次に生かす」 5割○日常テスト 同上 | 4割2分 | ○振り返りの記述内容について「なぜできたのか」は困難 | △ |
| 4 修正 | 話す(説明)力の向上 | 全児童 全教科 | 年間 | ア間違いを恐れず発表する風土 「教室は間違える所」の醸成 イ発問の工夫、発言へのリアクション技術で、話す意欲を高める | ○担任による授業記録 ○児童アンケート | ○年3回 日常的な授業での発言率 5割 | 4割5分 | ○発表する児童は増えているが、半数には至らなかった。 | △ |
| 5 修正 | 家庭学習 | 3年以上 全科 | 年間 | ア課題を選択・判断させるとともに、なぜその課題を行うのかも考える態度の育成。 イ校長通信の発行 | ○自主学習 振り返り ○発行内容 | ○1月 低5・中6・高7割 ○年間30号 | 低1割 中5割 高8割 発行5部 | ○低学年は単発にはできるが日常化は困難。高学年は定着 | △ |
| 6 修正 | サマースクール | 希望者 算数(国) | 夏季休業日中 | ○誤答分析に基づき、一人一人が自己の課題を明確にして参加する。 | ○休業後の学びの姿 | ○対象者単元テスト ・自己分析力向上 ・平均点前後比向上 | 自己分析力20% 平均点向上12% | ○授業形式の補習は、自己肯定感も高め、その後にも有用 | ◎ |
| 7 修正 | ICT教育の充実 | 全教科 | 年間 | ア「基本方針」の発達段階に応じた情報活用能力の育成 イAIドリルの活用 | ア担任の見取り | アスキル等必須項目の達成 イ日常的活用 | AIドリル 日常的に活用 | ○AIドリルは教科や内容によるが有効な場面も多かった。 | ◎ |

| | | | | | |
|------------------------------|-----------------------------|--|-----------------------|---|-----|
| 重点的な取組事項－2 | | 安心して楽しく通える学校、愛校心の涵養 | | | |
| A 今年度の成果目標 | | 達成基準 | 実施結果 | コメント・課題 | 達成度 |
| 思いやりの心の育成 いじめの早期対応 自立心の涵養 | | 3項目中2項目 | 1項目達成 | ・周年が終わり、やや意識が低下した。 | △ |
| B 目標実現に向けた取組み | | | | | |
| 項目 | 達成基準 | 具体的な方策 | 実施結果 | コメント・課題 | 達成度 |
| あたたかい人間関係の構築 | ○廊下等での挨拶励行 ○相手を思いやる言動の増加 | ○挨拶意識の向上 ○集団への貢献や周囲を幸せにする言動の周知 | ○70% ○78% | ・挨拶は、自分から積極的にできる児童がまだ多数とは言えない。 ・周囲へ配慮した言動も増加傾向にはある。 | △ |
| コロナ被害及び、いじめの予防早期対応 | ○感染に応じた縮減 誹謗中傷の予防 | ○感染を考慮した学校行事 ○感染と同時の注意メール ○いじめへの迅速対応 | ○90% ○100% ○88% | ・感染に配慮しながら、授業、行事、公開などを実施することができた。・いじめを全て防ぐことは難しかったが真摯に対応した。 | ◎ |

| | | | | | |
|--------------------|---------|-------------------------|--------------|-------------------------------|---|
| 皿沼小や地域に対する誇りや愛情の醸成 | 所属意識の涵養 | ○学校の決まりの意味理解 ○自立的な行動 | ○74% ○63% | ・なぜ、その決まりがあるのかを考えられる児童が増えてきた。 | △ |
|--------------------|---------|-------------------------|--------------|-------------------------------|---|

| 重点的な取組事項－3 | | 教師としての資質・能力の向上 | | | |
|--------------------------------|--------------------------------------|--|--------------------|--|-----|
| A | 今年度の成果目標 | 達成基準 | 実施結果 | コメント・課題 | 達成度 |
| | 学習指導要領理解と実践とその環境整備 | 4項目の3項目達成 | 3項目達成 | ・働き方改革は実現してきた。 | ◎ |
| B 目標実現に向けた取組み | | | | | |
| 項目 | 達成基準 | 具体的な方策 | 実施結果 | コメント・課題 | 達成度 |
| 「見方・考え方」を働かせる「主体的・対話的で深い学び」の実現 | ○発問と発言へのリアクション技術の向上 ○学習指導要領の理解と実践 | ○授業分析研修等の新設 木曜研修の設定 ○区小研参加報告 ○校長通信の発行 | ○70% ○校長室通信発行5号 | ・発問やリアクションについては、意識は高まったが、まだまだ実現できる場面が多数ある。・校長室通信は、校長が他の業務に傾注したため発行を断念した。 | △ |
| 単元設計力の向上 | ○授業観察時、指導評価計画を作成 | ○本時案に加え単元指導評価計画を作成し、評価について一層理解を深める | ○80% | ・この単元でどのような力をつけるのかについて設計できるようになってきた。 | ◎ |
| 授業に傾注できる環境を整える働き方改革 | ○休憩時間の確保 会議時間の短縮 相談できる関係構築 | ○行事の一層の効率化 ○企画委員会における検討事項への焦点化 | ○80% | ・職員会議の時間は劇的に短くなった。企画委員会はまだ改善の余地がある。相談しやすい雰囲気も醸成されている。 | ◎ |
| 学習指導要領の系統性理解 | ○中学校、保育園交流。 感染状況を鑑み実施 | ○発達の連続性を踏まえた資質・能力の育成を図る研修 | ○80% | ・小中連携の視点を設けて指導案を作成できている。 | ◎ |

6 まとめ

1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

「なぜ、そのことを学ぶのか」など学ぶ意味について考えさせること、および「この授業で何が見についたのか」「それはなぜか」という「振り返り」にも力を入れている。低学年にはまだこの「メタ認知」が難しいが、高学年では、自分の立ち位置を知り、必要な学習を自主的に取り組む児童が増えてきた。区調査では「勉強が好き」の項目が区平均を超えるなど、昨年度から「学びに向かう力」にシフトした成果が出始めている。また、昨年度策定した算数の「授業改善プラン」は、つまり前に分かりやすい授業をすることを目指している。今年度は国語の授業改善に取り組み始めた。特に読解力に課題があることが分かったため、来年度は一層その向上を目指していく。しかし、読解力の向上には時間を要するため、すぐに学力調査の結果として現れるとは限らない。2～3年後には成果が見られること目指し、長いスパンで児童の変容を見取っていく。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

読解力の向上には、読書の習慣も重要な要素になります。ご家庭でもご配慮いただくと有難いです。将来社会で活躍できる力を育むことを目指し、ともに子供を育てるパートナーとして、今後も、ご理解とご協力をお願いしたいと存じます。